

# 宮川堤（土木遺産）の改修工事

堤防整備計画区間

宮川

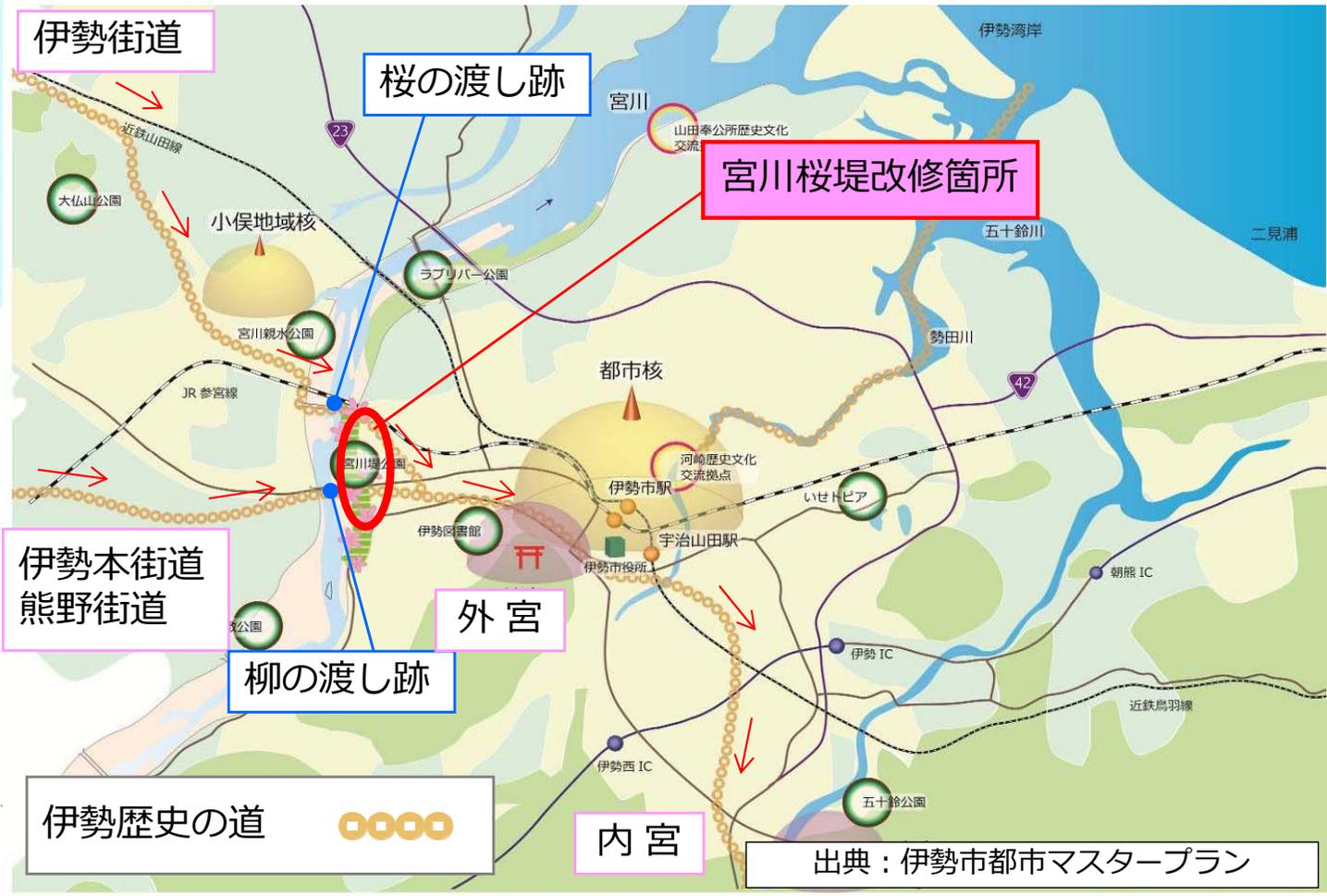
中部地方整備局 河川部河川工事課

谷田 翔平

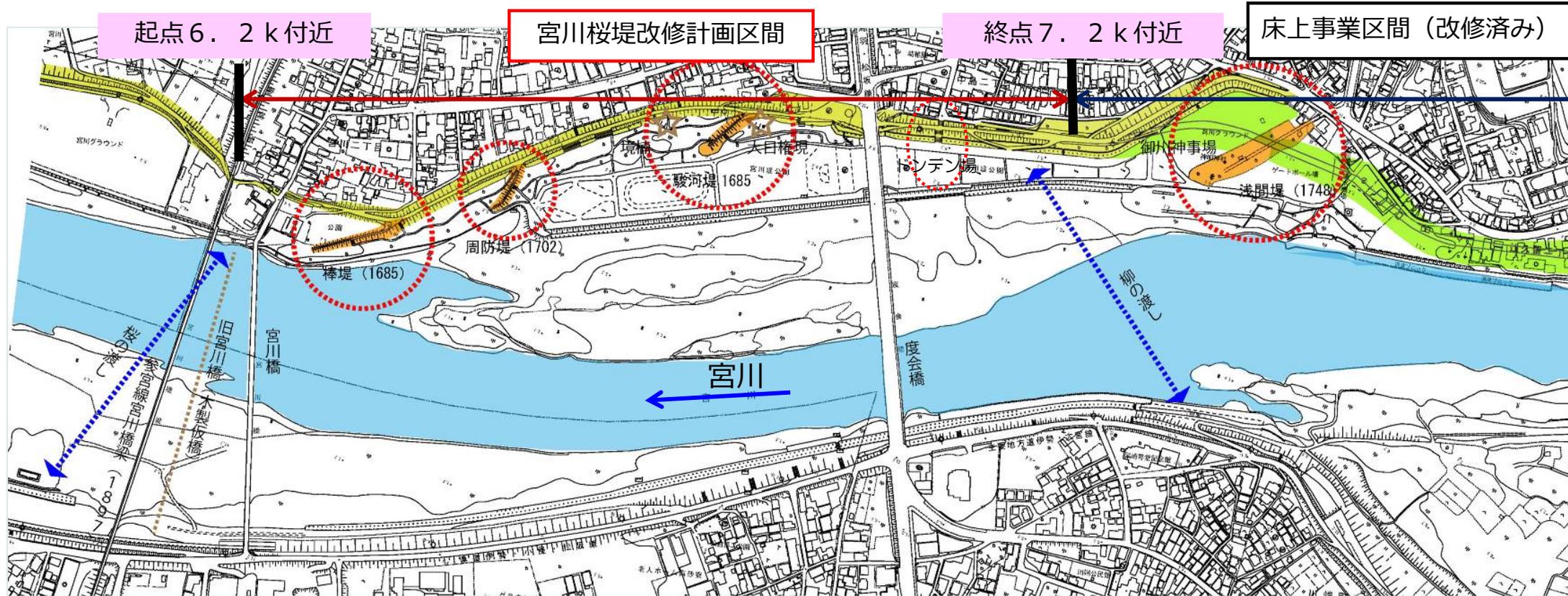
# 1. はじめに



宮川桜堤改修箇所  
(宮川右岸6k~7k付近)



## 2. 宮川桜堤の景観的特徴、歴史・文化遺産



春の宮川堤と駿河堤 (貞享2年・1685)



歌川広重 (かめやま美術館所蔵)



現在の状況

宮川の渡し



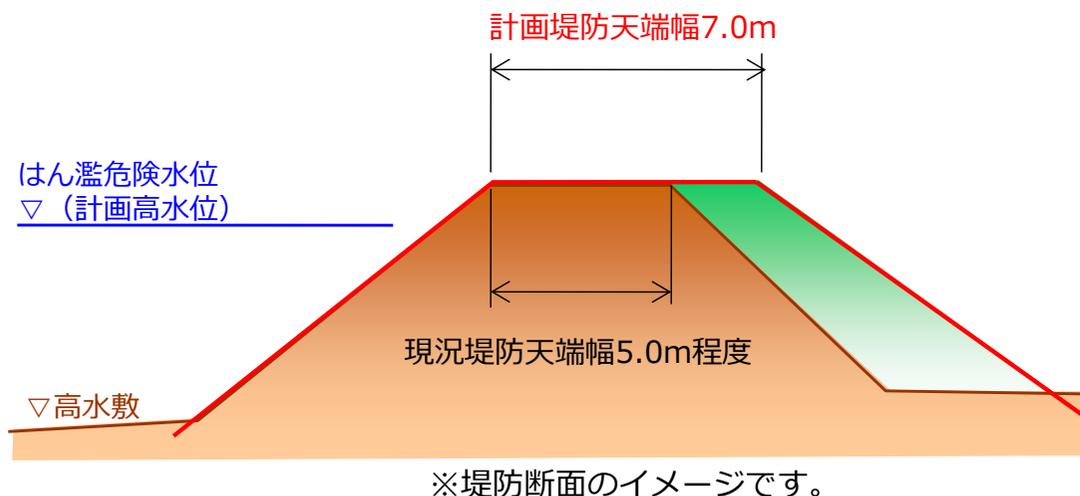
第62回式年遷宮 お木曳き行事  
(写真：伊勢市)

## 2. 宮川桜堤の治水安全性

### ◆宮川桜堤の治水安全性について

- ・宮川桜堤は、堤防断面が不足していることから、近年も洪水により漏水が発生している。
- ・多くの桜が老齢期を迎えているため、枯死や倒伏により、堤防の弱体化を招く恐れがある。

### 現在の宮川桜堤の安全性について



漏水の発生 (H16年9月洪水)



ガマの発生 (H23年9月洪水)

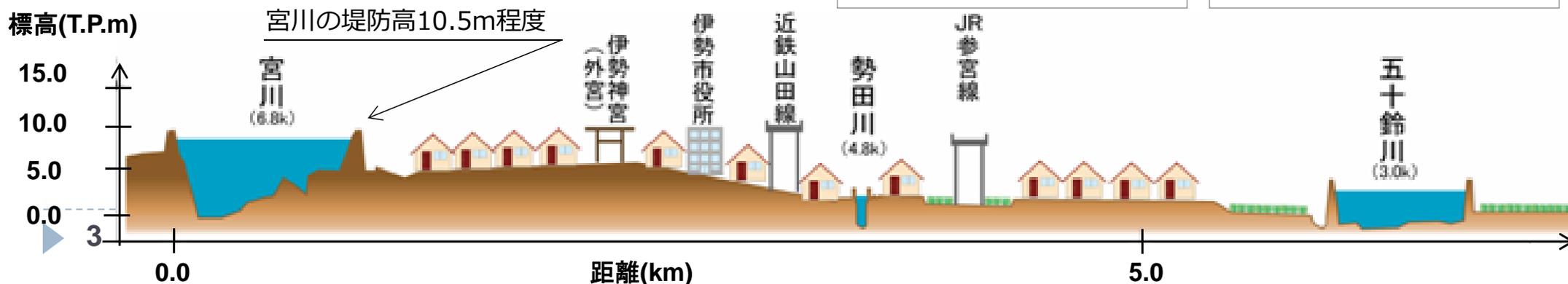


テング巣病に感染して縮れた枝



寿命を迎え枯死した桜

### 宮川と伊勢市街地の横断イメージ



# 3. 宮川桜堤改修における地域との合意形成の経緯

H24.3月～4月

**宮川右岸堤防改修対策協議会**  
 <伊勢市監理課>  
 【目的】  
 宮川右岸堤防の改修計画内容について国及び地元関係者相互の意見調整を図る。  
 【構成メンバー】  
 地元自治会長他4名、漁協組合長、宮川保勝会会長、伊勢商工会議所常議員、伊勢市観光協会部長、伊勢郷土会会長、学識者（中部大学松尾教授）、伊勢市

H24.2月

改修計画（たたき台）

H24.7月～H26.1月

**名勝宮川堤保存管理指針策定委員会**  
 <伊勢市教育委員会>  
 【目的】  
 名勝宮川桜堤を適切に保存、管理を行うために必要な基本方針、方法等の指針を策定する。  
【文化財保護条例、景観法の通知内容（改修方針）を検討】  
 【構成メンバー】  
 学識者3名、宮川保勝会会長他1名、楠奉賛会会長  
 （関係機関）国、三重県教育委員会、伊勢市都市整備部

H24.12月～H25.2月

地元説明会  
 アンケート・パブコメ

H24.4月

宮川堤防改修計画(案)

H25.10月～H26.3月

**宮川右岸堤防改修景観検討委員会**  
 <三重河川国道事務所>  
 【目的】  
 宮川右岸堤防の改修工事内容の最終調整とフォローアップを含め、事業内容を検証する。  
 【構成メンバー】  
 地元自治会長、町内会長、学識者（中部大学 松尾教授、三重大学 浅野准教授、皇学館大学 岡田教授）

H26.2月

地元説明会  
 アンケート・パブコメ

H26.1月

宮川堤防改修計画(修正案)

H26.3月

宮川堤防改修計画 策定

【宮川堤の関係法令等】  
 昭和12年6月に三重県名勝「宮川堤」に指定  
 ○三重県文化財保護条例：行為の規制（許可）  
 ○景観法：風致地区指定による行為の規制（通知）  
 ○伊勢市風致地区内における建築等の規制に関する条例：行為の規制（通知）



# ①桜の渡し跡周辺の景観整備：基本方針

■ 歴史的な土木文化遺産（棒堤と桜の渡し跡）を活かした水辺空間整備を行い、新しいにぎわいを生み出す。

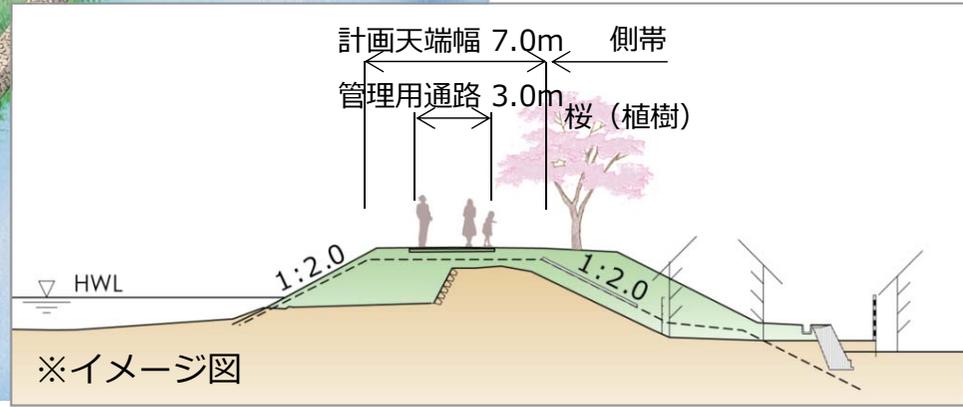
【堤防整備】 突出堤より前に出ない位置で堤防断面を拡幅。舗装幅3m、両サイドは草地（自然的で柔らかい空間）。

【環境側帯】 桜の植栽スペースを確保する。（高木は1列植栽可能）

【棒堤】 突出堤の治水効果を最大限発揮するために、形状は出来る限り維持する。

【桜の渡し跡】 かつての渡し跡の水辺景観を参考に新たなにぎわいの場を形成する。

【桜や松の植栽】 広重の絵に見られる松や桜は、治水上支障のない場所（側帯、高水敷の死水域）に植栽する。



## ②桜堤区間の景観整備：基本方針

- 堤防の強化と歴史的土木遺産（突出堤）の治水機能の保全活用、桜堤の景観のバランスをとった堤防改修により、宮川堤の歴史と文化が織り成す潤いのある空間を整備する。

【堤防整備】堤防を前腹付けして、現堤防を環境側帯とすることにより、桜堤の景観（桜のトンネル）を継承する。

【環境側帯】環境側帯に桜の植栽スペースを確保し、1.5m幅の散策路を設ける。

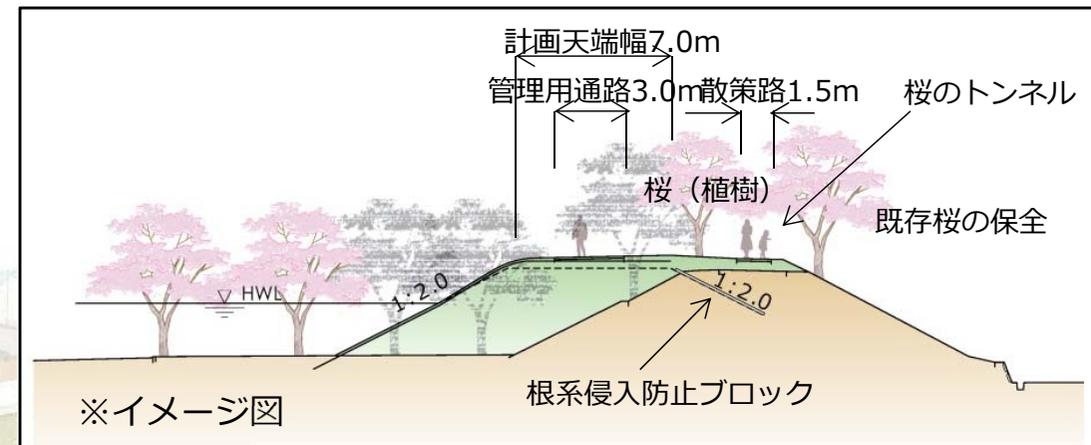
【突出し堤】突出し堤の治水効果を最大限発揮するために、形状は出来る限り維持する。

【堤防天端】側帯には、桜の季節だけでなく、日常の憩いや安らぎを感じる場所を整備する。（月の輪など）

【堤防と高水敷のアクセス】高水敷へのアクセス確保のため、要所に階段、スロープを設置する。

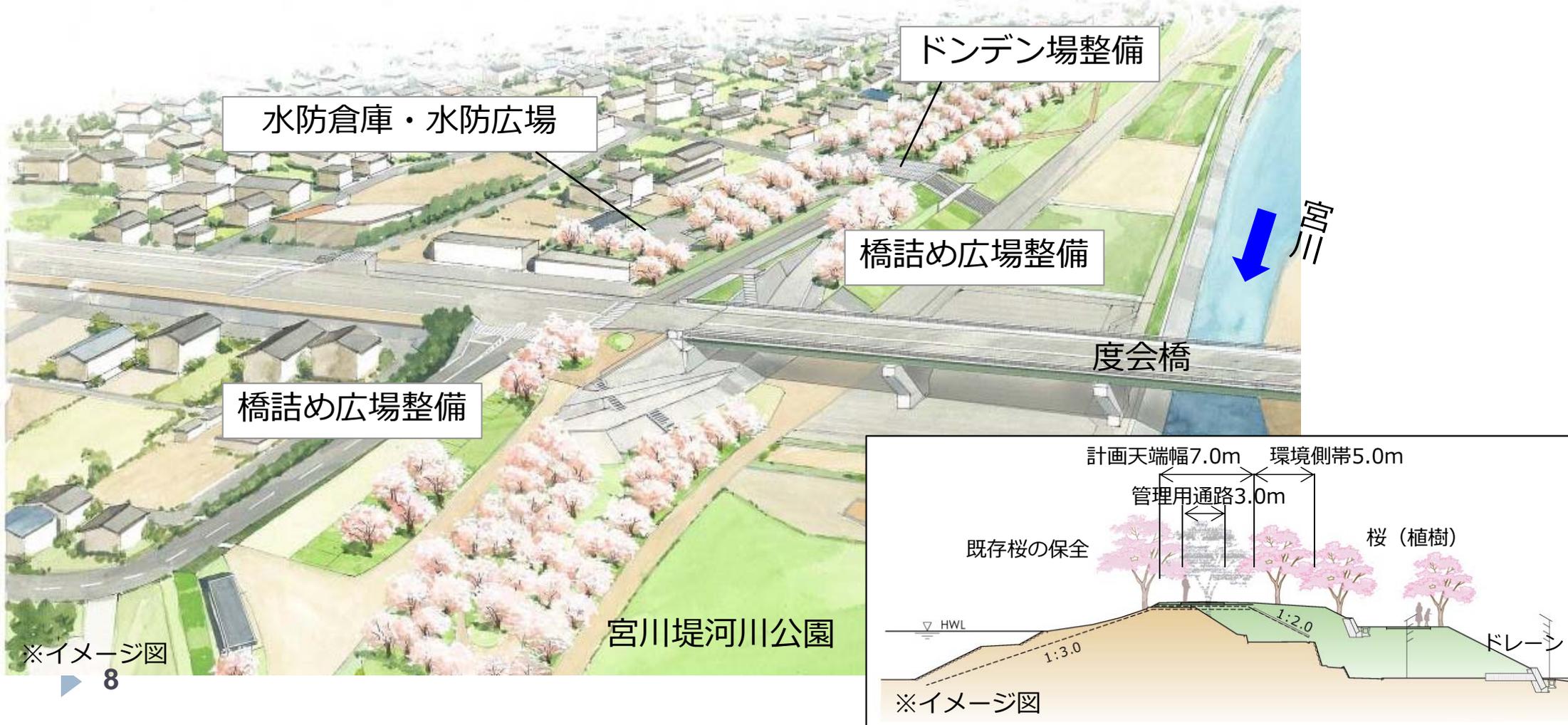
【案内看板やサイン】突出し堤などの歴史や景観などを伝える案内サインを整備する。

【境楠、大日権現社】堤防強化断面を工夫し、現在の位置に存置する。



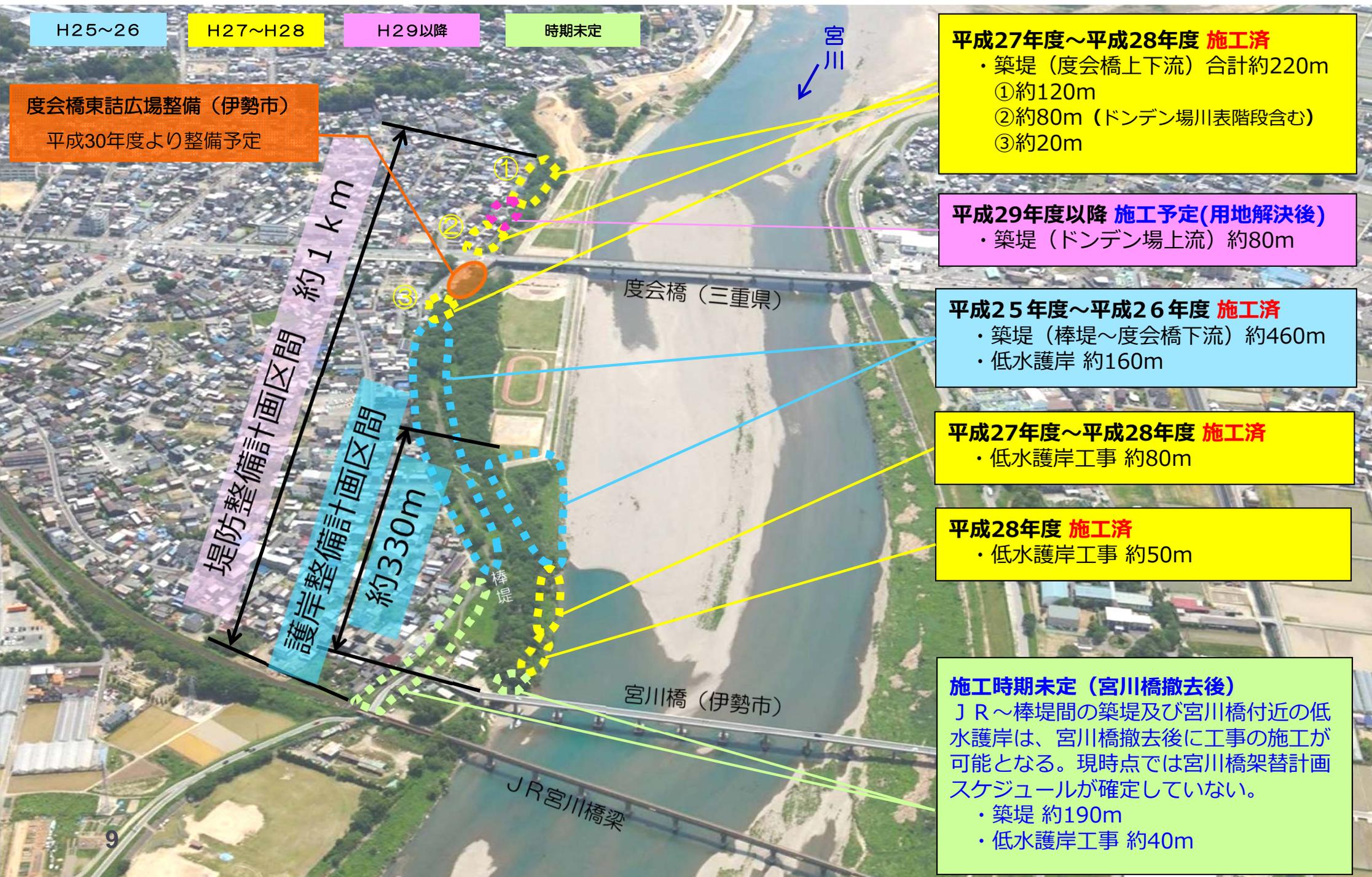
### ③度会橋上流の景観整備

- 治水・水防の拠点と歴史や日常の憩いの場が共存し、川への関心を高める場所を創出する。
  - 【桜の保全】川表側の桜並木を保全する。川裏側の既存桜は盛土工事のため伐採するが、川裏側に幅5mの側帯を設けて新規に桜を植樹できるようにする。（桜のトンネル復元）
  - 【水防広場】度会橋上流に水防広場を設け、日常的に憩いの場として利用するとともに、水防活動の拠点とする。
  - 【橋詰広場】たまり空間を設けて、新たな憩いの場を創出する。
  - 【ドンデン場】お木曳き行事の舞台となるドンデン場については、関係者と調整し行事が持続できるように整備する。
  - 【柳の渡し跡】柳の渡し跡の案内看板を配置する。柳の渡しの由来となった柳を植栽する。

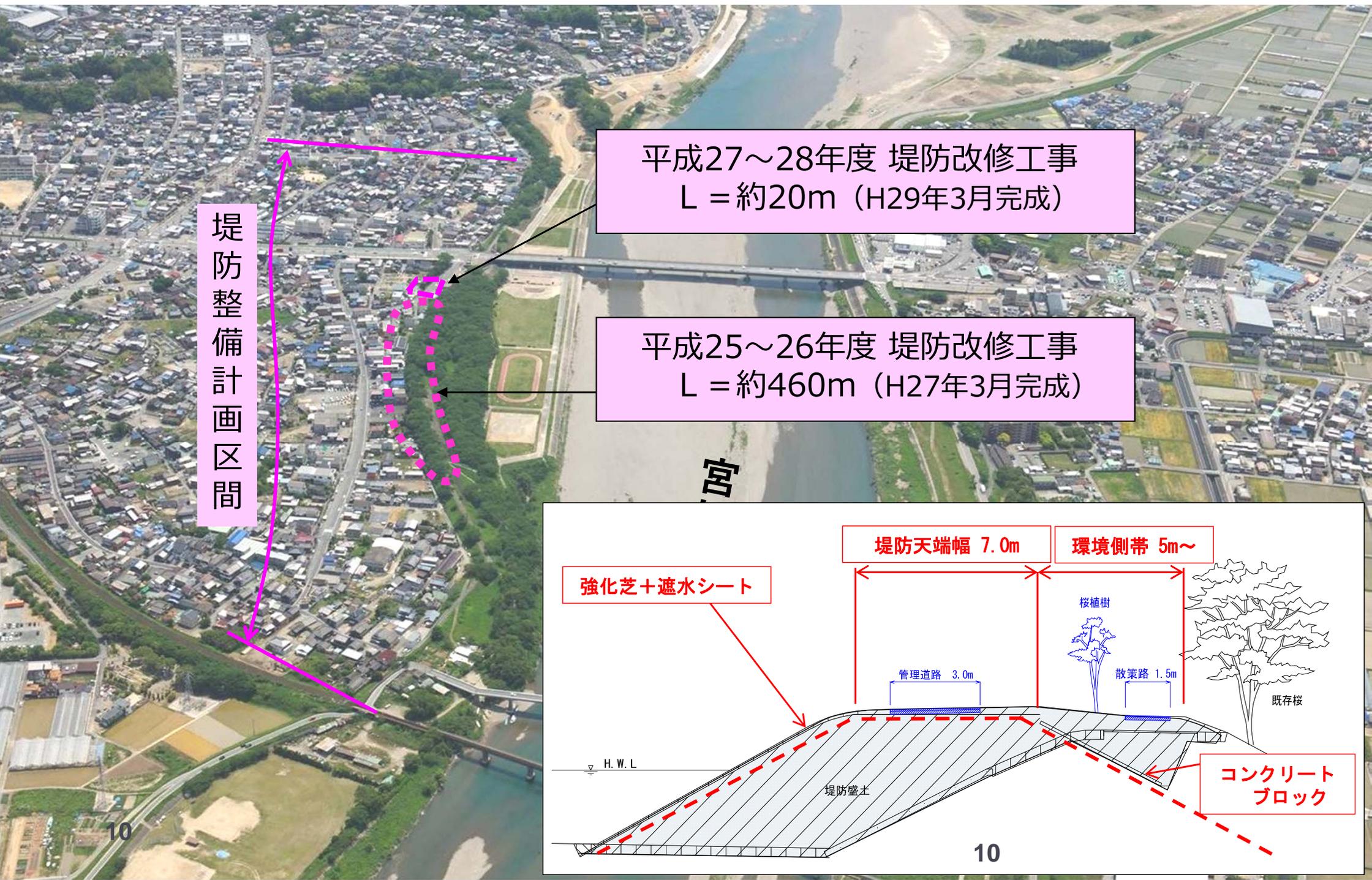


※イメージ図

# 5. 宮川桜堤改修工事の実施状況（H29.9月現在）



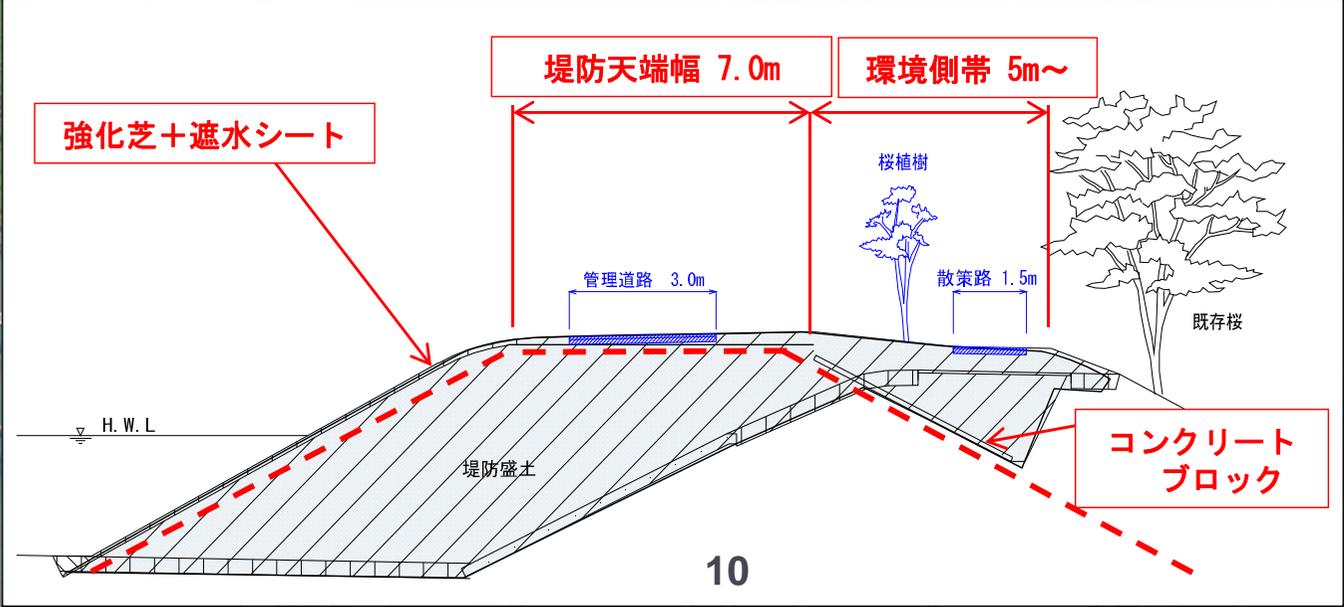
# 6. 度会橋より下流で実施した堤防工事について



堤防整備計画区間

平成27~28年度 堤防改修工事  
L = 約20m (H29年3月完成)

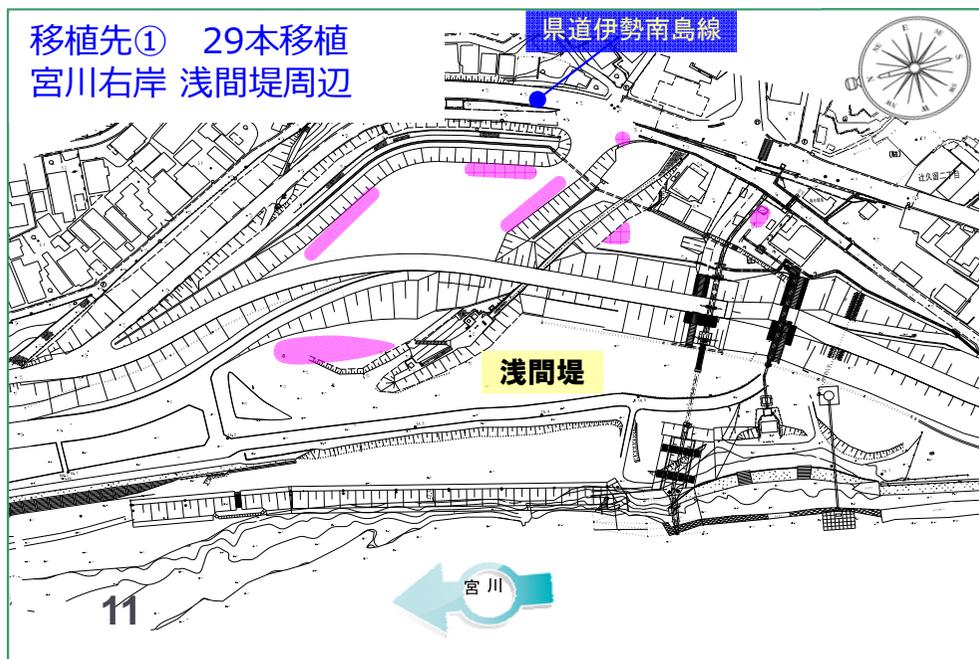
平成25~26年度 堤防改修工事  
L = 約460m (H27年3月完成)



## 6-② 景観等に配慮したもの（シダレザクラの移植）

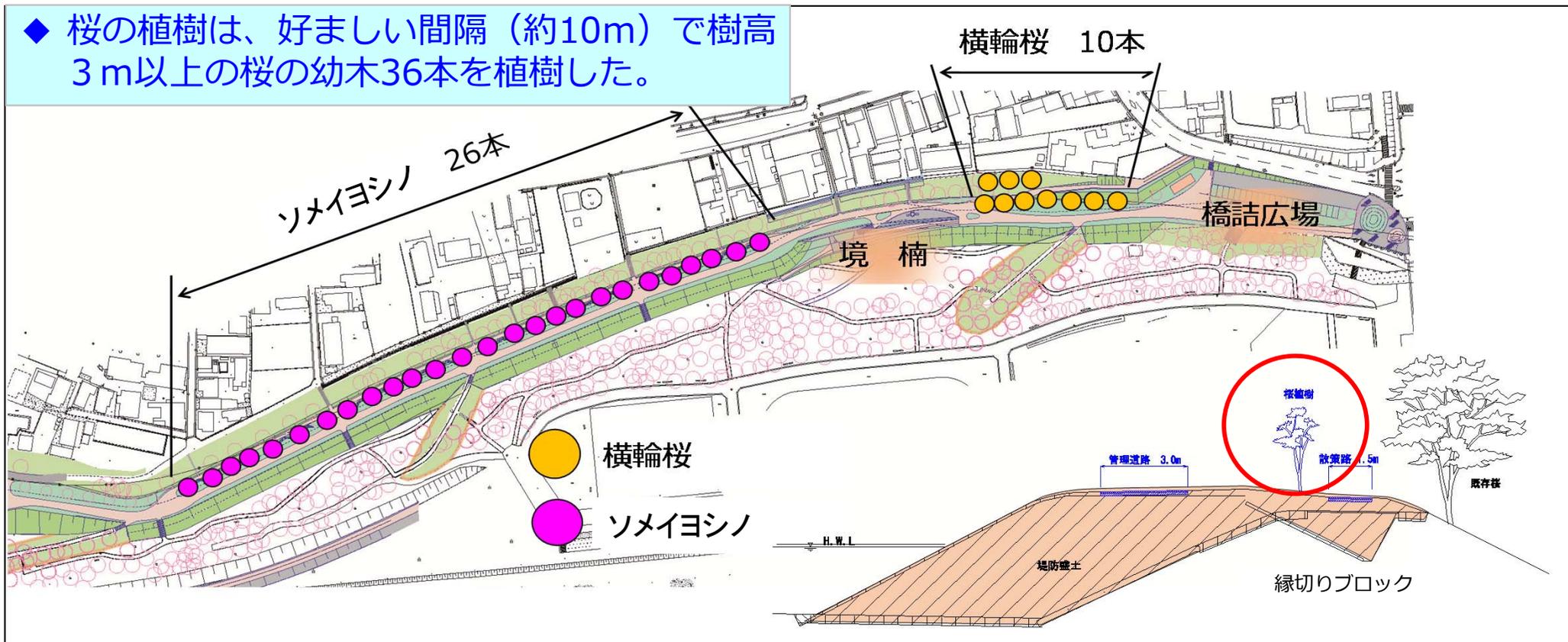
### ◆ シダレザクラの移植（H25.2月）

- ・ 樹木医に確認したところ、高水敷のシダレザクラ49本（樹高3～5m程度）が移植可能（適期1～2月）であることから、堤防改修工事に先立ち、現状変更許可申請手続きを行い、近隣の植樹可能な箇所に移植を実施。

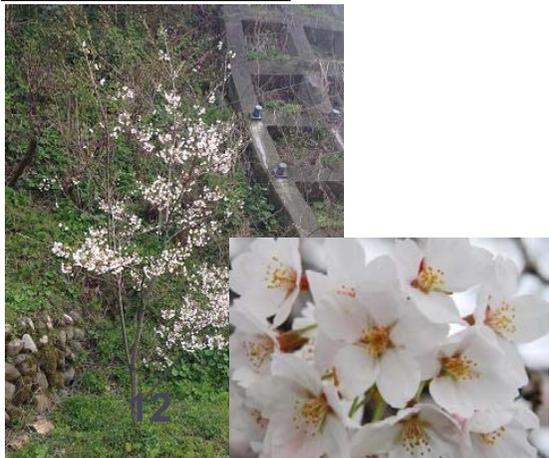


# 6-③ 景観等に配慮したもの（桜の補植）

◆ 桜の植樹は、好ましい間隔（約10m）で樹高3m以上の桜の幼木36本を植樹した。



ソメイヨシノ



横輪桜



植樹後の状況

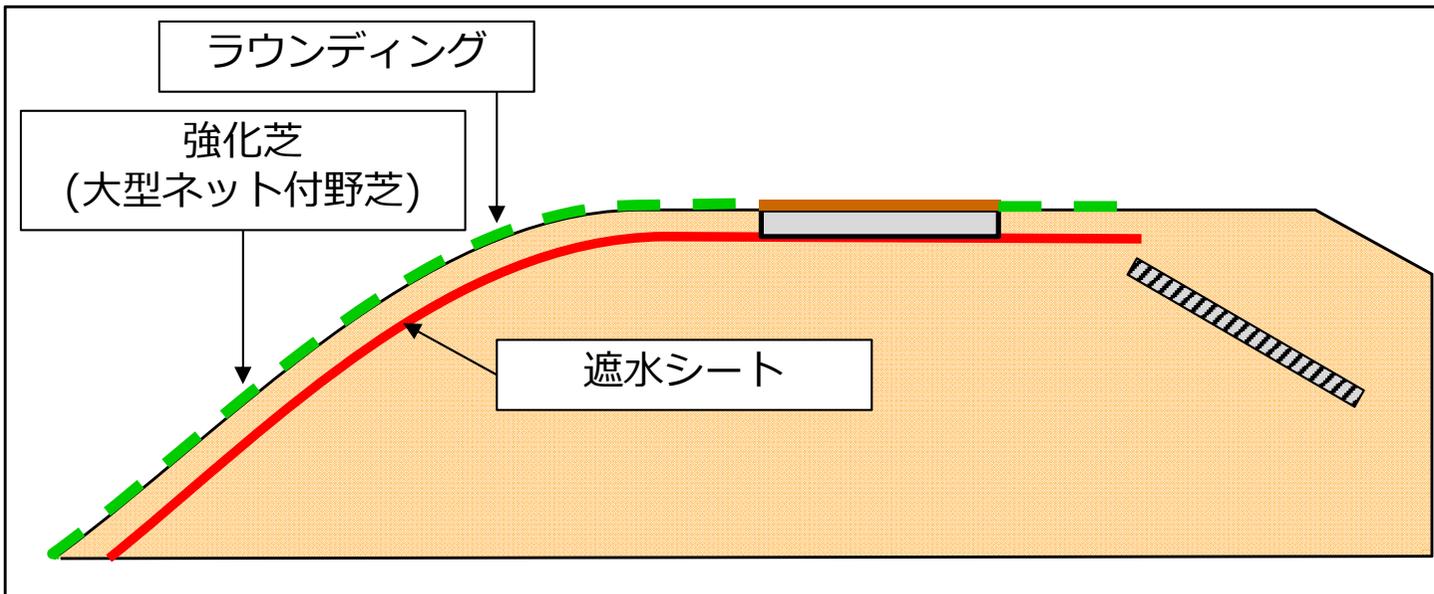


## 6-④ 景観等に配慮したもの（遮水シートと強化芝）

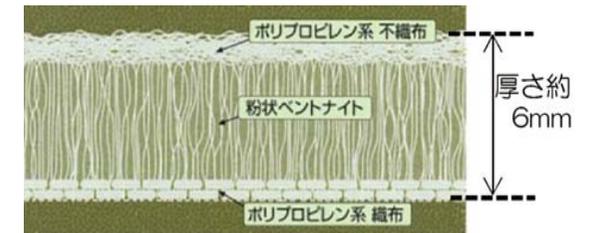
### ◆ 緑化可能な遮水シート護岸

強化芝（大型ネット付野芝）+ベントナイトシート（ピン打ち可能な遮水シート）

### ◆ 堤防の肩をラウンディングして、やわらかい景観を創出



遮水シート詳細図



## 6-⑤ 景観等に配慮したもの（石積み・石張り・階段）

- ◆ 小広場とスロープを設けて境楠にまつわる行事など広場的な活用ができるようにした。
- ◆ 境楠周辺の石積みや小広場、階段は、宮川堤の歴史、文化、景観に配慮して「自然石」を採用した。
  - ・ 石積み護岸、階段の石材は、明度は6以下を目安に選定した（安山岩）。
  - ・ 境楠周辺の石張りは、伊勢神宮内宮と同じ石材を使用し、表面はビシャン仕上げとした（黒御影石）。



## 6-⑥ 景観等に配慮したもの（舗装、半円形の盛土、距離標）

### ◆ 舗装

- ・自然景観（桜並木、緑地）になじむように、土系に近い脱色アスファルト舗装とした。

### ◆ 半円形の盛土（「月ノ輪」と命名）

- ・堤防裏側帯天端部に、人のにぎわいを生み出す工夫として、くつろぎや休憩ができる場所を整備した。

### ◆ 河川距離標のベースコン

- ・宮川堤の歴史文化、魅力を高めることができる工夫（明度調整）を行った。



舗装



半円形の盛土（月ノ輪）



河川距離標

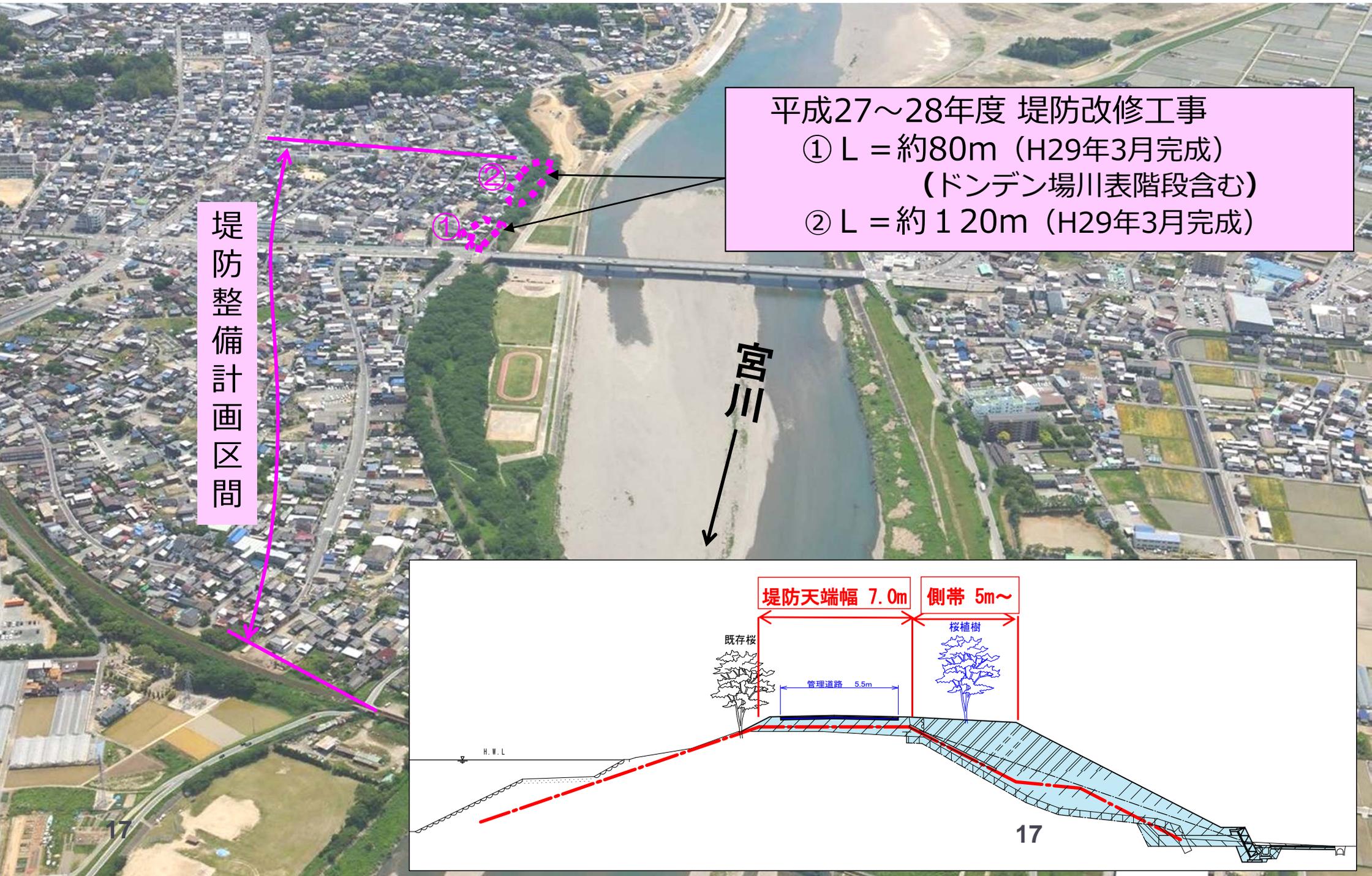
## 6-⑦ 整備後の状況（H26年度完成箇所：全景②）



全景（上流より下流を望む）

L = 約460m（H26年度完成）

# 7. 度会橋より上流で実施した堤防工事について



平成27~28年度 堤防改修工事  
① L = 約80m (H29年3月完成)  
    (ドンデン場川表階段含む)  
② L = 約120m (H29年3月完成)

堤防整備計画区間

宮川

堤防天端幅 7.0m 側帯 5m~

既存桜

桜植樹

管理道路 5.5m

H.W.L.

## 7-② 整備後の状況 (H28年度完成箇所①:各施設等)



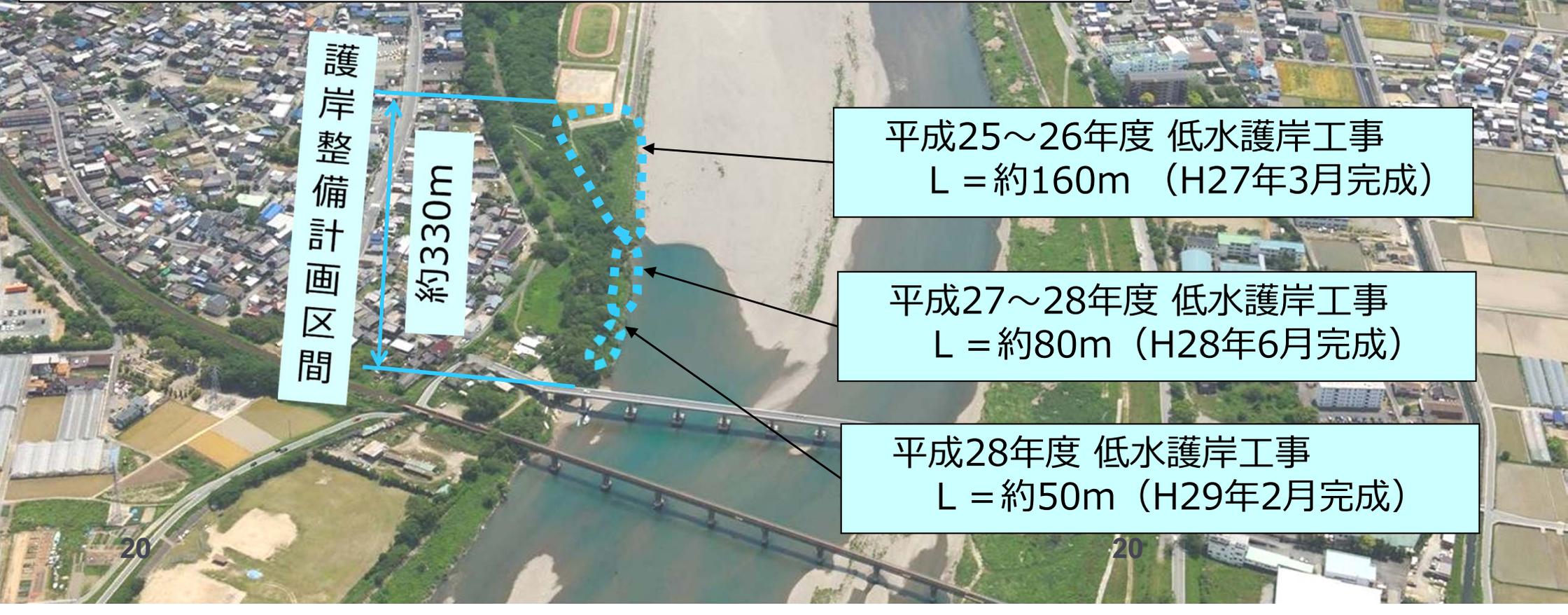
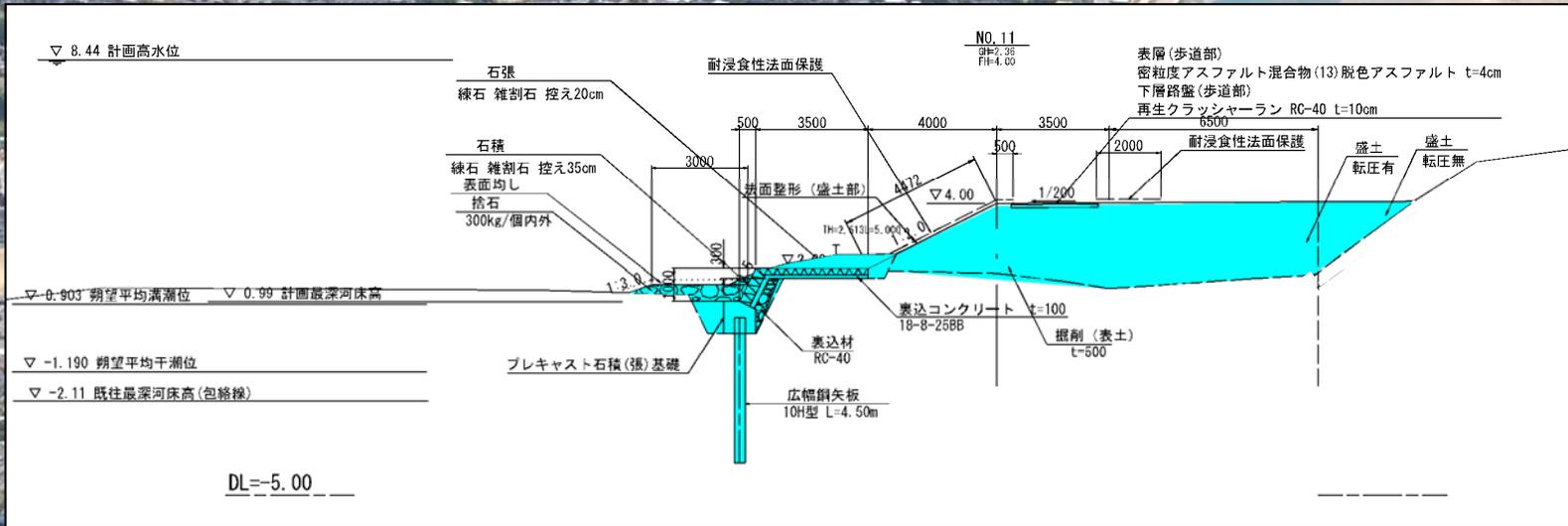
## 7-③ 整備後の状況 (H28年度完成箇所①:度会橋～ドンデン場)



全景 (ドンデン場より下流を望む)

① L = 約80m (H28年度完成)

# 8. 棒堤附近で実施した護岸工事について



護岸整備計画区間

約330m

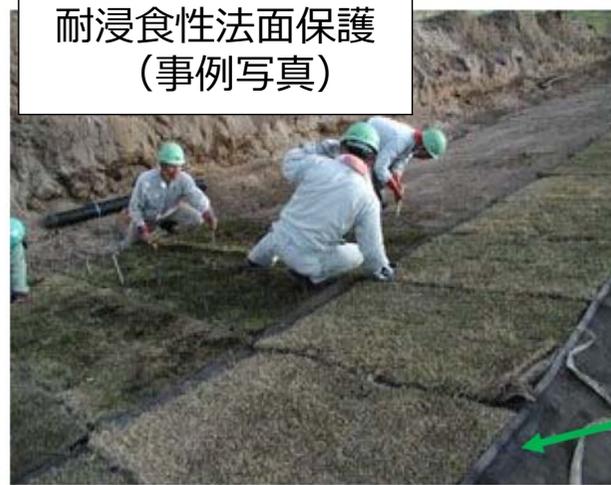
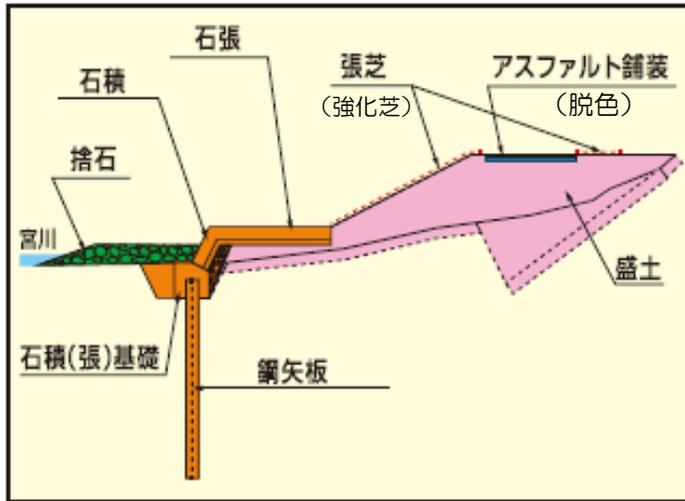
平成25~26年度 低水護岸工事  
L = 約160m (H27年3月完成)

平成27~28年度 低水護岸工事  
L = 約80m (H28年6月完成)

平成28年度 低水護岸工事  
L = 約50m (H29年2月完成)

# 8-① 景観等に配慮したもの（耐浸食性法面保護、石積、石張）

- ◆自然石積み護岸：宮川堤の歴史、文化、景観にふさわしい「自然石」を使用
- ◆耐浸食性法面保護：野芝とジオテキスタイルネットが一体化構造



## 8-② 整備後の状況（全景）

全景（下流より上流を望む）

L = 約290m（H28年度までの完成分）



宮川



H29.2月撮影

# 9. 宮川堤が土木学会選奨土木遺産に認定



土木学会選奨土木遺産認定書



土木学会選奨土木遺産プレート

